

【 復活のトロパリ 第1調 】

きゆ うせ え いしゆよ、 イウ デ ヤ の ひ と は か を
 救 世 主 人 墓
 ふ っ じ て 、 へ い そ つ なんぢ の い さ ぎ よ き み を
 封 兵 卒 爾 潔 軀
 ま も る と き 、 なんぢ は み っ か め に ふ く か つ
 守 時 爾 三 日 目 復 活
 し て 、 せ か い に い の ち を た ま え り 。
 世 界 生 命 賜
 ゆ え に て ん ぐ ん は なんぢ い の ち を ほ ど こ す の
 故 天 軍 爾 生 命 施
 し ゆ に よ べ り 、 ハ リ ス ト ス よ 、 こ う え い は
 主 呼 光 榮
 なんぢ の ふ く か つ に き し 、 こ お う え い は なんぢ
 爾 復 活 歸 し 光 榮 爾
 の く に に き す 、 ひ と り ひ と を い つ く し む
 國 歸 獨 人 慈
 し ゆ よ 、 こ う え い は なんぢ の お も ん ぱ か り に
 主 光 榮 爾 慮
 き す 。

【 日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

し と と ひ と し く ど う ざ な る も の 、 ち ゆ う
 使 徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリスト スのえきしゃ、せい
 實 神智 役者 聖
 なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい
 神 撰 笛 愛
 にみちたるうつわ、わがくにのこう
 満 器 我 國 光
 しょおしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ
 照 者 亜使徒主教 聖
 よ、なんぢのぼくぐんのため、および
 爾 羊 群 爲 及
 ぜんせかいのために、いのちをたもうせい
 全世界 爲 生命 賜 聖
 さんしゃにいのりたまえ。
 三者 祈 給

【日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第4調】

こうえいはちちとこ おと せいしんにき
 光 榮 父 子 聖 神 歸
 す、
 せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが
 成 聖 者 亜使徒 聖 我
 くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ
 國 爾 旅 人 及 異 邦 人 受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの
 爾 初 我 國 於 己
 れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの
 外 來 者 知
 ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて
 光 暖 流 爾 敵
 きをぞくしんのことなあし、かれらにか
 屬 神 子 爲 彼 等 神
 みのおんちようをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
 恩 寵 與 教 會 建
 たり、いまこのきょうかいのためにいのり
 今 此 教 會 爲 祈
 たまあえ、けだしわれらそのしよしはなん
 給 蓋 我 等 其 諸 子 爾
 ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
 呼 我 善 牧 者 慶
 べよ。

【 復活のコンダク 第1調 】

いまもいつもよよにい、ア
 今 何 時 世 世 に い、ア
 ミ ン。



しゅさいよ、なんぢはかみなるによりてこう
主宰 爾 神 因 光
えいのうちに はかよりふくかつし、せ世
榮 中 墓 復 活
かいをもともにふくかつせしめたまえり。
界 借 復 活 給
ひとのせいはいはなんぢをかみとしてほめう
人 性 爾 神 讚 歌
たい、しはほろぼされ、アダムはたのし
死 滅 樂
み、エヴァはいまなわめよりとかれ
今 縛 釋
てよろこびてよぶ、ハリストスよ、なんぢ
観 呼 爾
はしゅうじんにふくかつをたもうしゅなり。
衆 人 復 活 賜 主

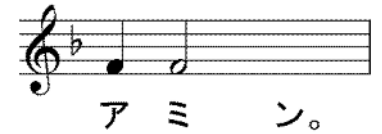
司祭) (黙誦：^{せい}聖なる^{かみ}神、^{せいじゃ}聖者の中に^{うち}息い、^{せいさん}セラフィムより^{こえ}聖三の^{もつ}聲を以て^{かしょう}歌頌せられ、
ヘルヴィムより^{さんえい}讚榮せられ、^{ことごと}悉くの^{てんぐん}天軍より^{ふくはい}伏拝せられ、^{ばんぶつ}萬物を^む無より^{ゆう}有と
なし、^{ひと}人を^{なんぢ}爾の^{ぞう}像と^{しょう}肖とに^よ依りて^{つく}造り、^{なんぢ}爾が^{もろもろ}諸の^{たまもの}賜を以て^{もつ}之を^{これ}飾り、
ねが^{もの}願う者に^{ちえ}智慧と^{めいご}明悟とを^{あた}與え、^{つみ}罪を^{おこな}行^{もの}う者を^す棄てずして、^{そのすくい}其救の^{ため}爲に^{つうかい}痛悔
を立て、^た我等^{われらいや}卑しくして^{ふとう}不當なる^{なんぢ}爾の^{しょぼく}諸僕を、^こ此の^{とき}時に^{おい}於ても、^{なんぢ}爾が^{せい}聖な
る^{さいだん}祭壇の^{こうえい}光榮の^{まえ}前に^た立ちて、^{なんぢ}爾に^{とうぜん}當然の^{ふくはいさんえい}伏拝讚榮を^{たてまつ}奉るに^た堪うる^{もの}者と
なしし^{しゅさい}主宰よ、^{なんぢみづか}爾親ら^{われらざいにん}我等^{くち}罪人の^{せいさん}口よりも^{うた}聖三の^う歌を受け、^{なんぢ}爾の^{じんじ}仁慈を

もつ われら のぞ われら およ じゆう じゆう つみ ゆる わ たましい からだ
以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が 靈 と 體 と

せい われら しょうがいぜんこう もつ なんぢ つと え せい たま せい
を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる

しょうしんぢょ こせい なんぢ よろこび な しょうせいじん きとう よ
生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) けだしわ かみ なんぢ せい われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま いつ よよ
蓋 我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世
に、



【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
聖なる神、聖なる勇毅、聖
じょうせいのもものよ、われらをあわれめ
常生者我等を憐
よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖なる神、聖なる勇毅、聖
なるじょうせいのもものよ、われらをあわれ
常生者我等を憐
めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
聖なる神、聖なる勇毅
せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ
聖常生者我等を憐
れめよ。こうえいはちちとことせいしん
光榮父と子と聖神

に き す 、 い ま も い つ も よ よ 世 世 に 、 ア ミ ン 。
 歸 今 何 時 世 世

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 の 者 我 等 憐

れ め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う
 聖 神 聖 勇

き 、 せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を
 毅 聖 常 生 の 者 我 等

あ わ れ め よ 。
 憐

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國
 の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、)

【 提綱 主日第1調 】

司祭) 慎みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐を我等に垂れ給え、

し ゅ よ 、 わ れ ら な ん ち を た の む が ご と く 、
 主 我 等 爾 頼 如

な ん ち の あ わ れ み を わ れ ら に た あ れ え た あ ま
 爾 憐 我 等 垂 給

え 。

誦經) ^{ぎじん}義人よ、^{しゅ}主の爲に^{ため}喜^{よろこ}べ、^{さんえい}讚^{ぎしゃ}榮^{かな}するは義者に^あ適^うう、

しゅ よ 、 わ れ ら な ん ぢ を た の む が ご と く 、
主 我 等 爾 頼 如
な ん ぢ の あ わ れ み を わ れ ら に た あ れ え た あ ま
爾 憐 我 等 垂 給
え 。

誦經) ^{しゅ}主よ、^{われらなんぢ}我等^{たの}爾^{ごと}を頼むが如く、

な ん ぢ の あ わ れ み を わ れ ら に た あ れ え た あ ま
爾 憐 我 等 垂 給
え 。

【 アポストロス 使徒經 131 端 コリント前書 4 章 9 節～16 節 】

司祭) ^{えいち}睿智、

誦經) ^{せいしと}聖使徒^{じん たつ}パウエルが^{ぜんしょ}コリント人に^{よみ}達する^ま前書の^よ讀、

司祭) ^{つつし}謹^きみて聽^きくべし、

誦經) ^{けいてい}兄弟よ、^{われおも}我意^{かみ}うに、^{われらしと}神は^{すえ}我等使徒を^{もの}末なる^な者と^し爲して、^し死に^{さだ}定められたる^{もの}者の^{ごと}如く^{あらわ}顯

^{われら}せり、^{せかい}我等は^{ため}世界の爲、^{てんし}天使等^{およ}及び^{ひと}人^{のため}人の爲に、^{みもの}觀玩と^な爲りたればなり。 ^{われら}我等は^はハリス

^よトスに^ぐ因りて^{なんぢら}愚なり、^{なんぢら}爾等は^{おい}ハリストスに^ち於て^{われら}智なり、^{よわ}我等は^{なんぢら}弱く、^{つよ}爾等は^{なんぢら}強し、^{なんぢら}爾等

^{えい}は^う榮を^{われら}享け、^{はづかしめ}我等は^お辱に^{いま}處るなり。 ^{いた}今に^{われら}迄^うるまで^{かわ}我等は^{はだか}飢え、^う渴き、^う裸裎になり、^う撻

^{さだま}たれ、^お定り^{ところ}居る^{ろう}處^てなく、^{わづ}勞して^な手づから^{われらのし}工を作す。 ^{しゅくふく}我等^{きんちく}詈られては^{しゅくふく}祝^{きんちく}福し、^{きんちく}窘^{きんちく}逐

^{しの}せられては^{そし}忍び、^{いの}謗られては^{われら}禱る、^よ我等は^{あくた}世の汚穢の^{ごと}如く、^{しゅう}衆^ふの^{ところ}踐む^{ちり}所の^{ごと}塵垢の^{ごと}如く

^{いま}せられて^{いた}今に至^{われ}れり。 ^{なんぢら}我は^{はづか}爾等を^{ほつ}愧し^{これ}めんと^{しよ}欲して^{あら}此を^{すなわちわ}書するに^{あい}非ず、^{あい}乃^{あい}我が^{あい}愛

^{ところ} ^こ ^{ごと} ^{なんぢら} ^{おし} ^わ ^{けだし} ^{なんぢら} ^{おい} ^{ばんにん} ^{しふ}
 する 所 の子の如く 爾 等を訓うるなり。 蓋 爾 等には、ハリストスに於て 萬人の師傅あ
^{いえども} ^{おお} ^{ちち} ^{われ} ^{おい} ^{ふくいん} ^{もつ} ^{なんぢら} ^う
 りと 雖、多くの父あるなし、我ハリストス イイスに於て 福音を以て 爾 等を生みた
^{ゆえ} ^{われ} ^{なんぢら} ^{もと} ^{われ} ^{なら} ^{われ} ^お ^{ごと}
 ればなり。 故に我 爾 等に求む、我に效いて、我のハリストスに於けるが如くせよ。

(比較用 口語訳) 神はわたしたち使徒を死刑囚のように、最後に出場する者として引き出し、こうしてわたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ。わたしたちはキリストのゆえに愚かな者となり、あなたがたはキリストにあって賢い者となっている。わたしたちは弱い、あなたがたは強い。あなたがたは尊ばれ、わたしたちは卑しめられている。今の今まで、わたしたちは飢え、かわき、裸にされ、打たれ、宿なしであり、苦勞して自分の手で働いている。はずかしめられては祝福し、迫害されては耐え忍び、ののしられては優しい言葉をかけている。わたしたちは今に至るまで、この世のちりのように、人間のくずのようにされている。わたしがこのようなことを書くのは、あなたがたをはずかしめるためではなく、むしろ、わたしの愛児としてさとすためである。たとひあなたがたに、キリストにある養育掛が一万人あったとしても、父が多くあるのではない。キリスト・イエスにあって、福音によりあなたがたを生んだのは、わたしなのである。そこで、あなたがたに勧める。わたしにならう者となちなさい。

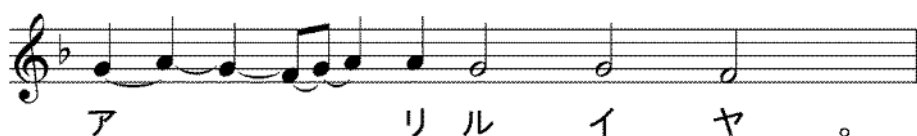
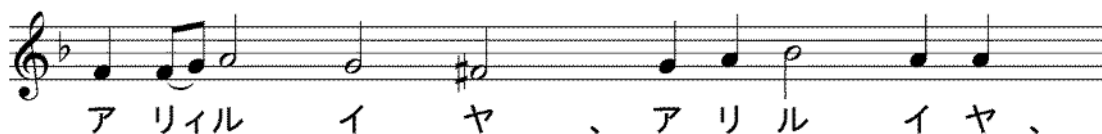
【 アリルイヤ 主日第1調 】

司祭) ^{なんぢ} ^{へいあん}
 爾 に平安、

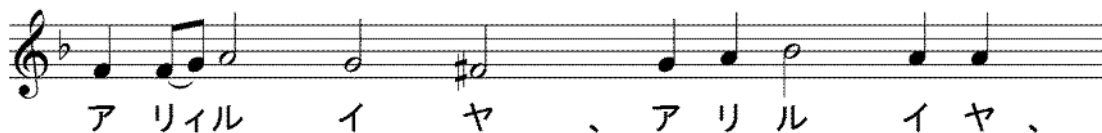
誦經) ^{なんぢ} ^{しん}
 爾 の神にも、

司祭) ^{えいち}
 睿智、

誦經) アリルイヤ、

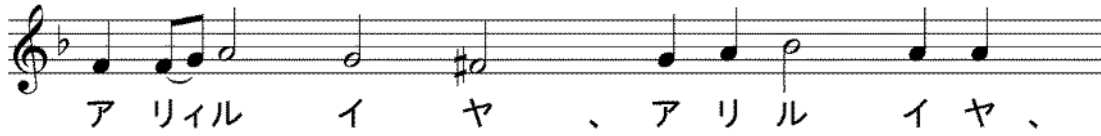


誦經) ^{ねが} ^わ ^{ため} ^{あだ} ^{かえ} ^{われ} ^{しよみん} ^{したが} ^{かみ} ^{さんしょう}
 願わくは我が爲に 仇を復し、我に諸民を 従わしむる神は 讚頌せられん、





誦經) ^{おおい すくい おう ほどこ あわれみ なんぢ あぶら もの およ そのすえ よよ} 大なる救を王に施し、憐を爾の膏つけられし者ダヴィド及び其裔に世々に
^{た もの われなんぢ な うた} 垂るる者よ、我爾の名に歌わん、



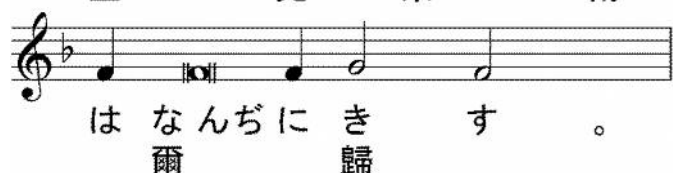
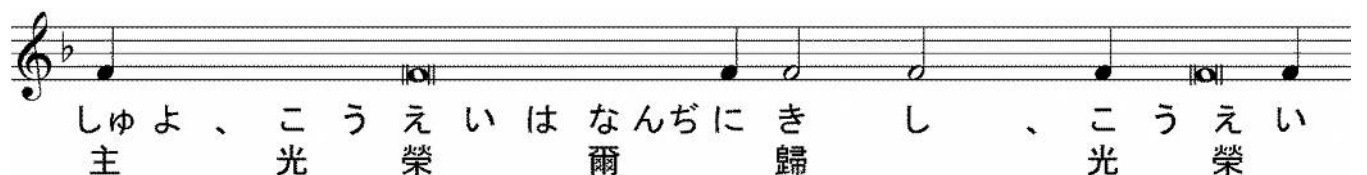
司祭) (^{ひと あい しゅさい わ ころろ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん} 黙誦: 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念
^{め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ} の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を
^{おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ} 畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所
^{おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ} を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、
^{なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん} 爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にし
^{いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ} て生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世々に、アミン。)

【 ^{エヴァンゲリオン} 福音經 マトフェイ福音書72端 17章14~23節 】

司祭) ^{えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん} 睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、



司祭) ^{でん せいふくいんけい よみ} マトフェイ傳の聖福音經の讀、



司祭) 謹みて聴くべし、彼の時或人イイスに就きて、跪きて曰えり、主よ、我が子を憐

め、彼癩癩を患いて、苦むこと甚し、蓋屢火に倒れ、亦屢水に倒る、我

之を携えて、爾の門徒に就きたれども、彼等醫すこと能わざりき。イイス答えて曰え

り、噫信なき悖れる世や、我何時までか爾等と偕に在らん、何時までか爾等を忍ばん、

彼を此に我に携え來れ。イイス魔鬼を禁めたれば、魔鬼出でて、其子斯の時より愈え

たり。其時門徒私にイイスに就きて曰えり、我等が之を逐い出す能わざりしは何の故

ぞ。イイス彼等に謂えり、爾等信なき故なり、蓋我誠に爾等に語ぐ、爾等若し

芥種の如き信あらば、此の山に、此より彼に移れと言うとも、移らん、又爾等に

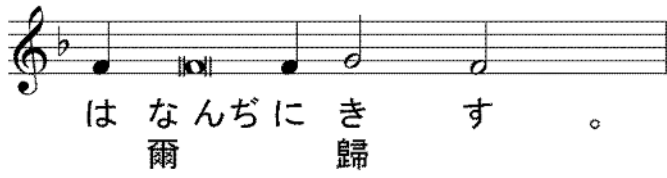
も能わざること勿らん。此の類に至りては、祈祷と齋とに由らざれば出でざるなり。ガ

リヤに在る時、イイス彼等に謂えり、人の子は人人の手に付されん。且彼を殺さん、

而して第三日に彼復活せん、

(比較用 口語訳) ひとりの人がイエスに近寄ってきて、ひざまずいて、言った、「主よ、わたしの子をあわれんでください。てんかんで苦しんでおります。何度も何度も火の中や水の中に倒れるのです。それで、その子をお弟子たちのところに連れてきましたが、なおしていただけませんでした」。イエスは答えて言われた、「ああ、なんという不信仰な、曲った時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。いつまであなたがたに我慢ができようか。その子をここに、わたしのところに連れてきなさい」。イエスがおしかりになると、悪霊はその子から出て行った。そして子はその時いやされた。それから、弟子たちがひそかにイエスのもとにきて言った、「わたしたちは、どうして霊を追い出せなかったのですか」。するとイエスは言われた、「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞かせておくが、もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう。しかし、このたぐいは、祈と断食とによらなければ、追い出すことはできない」。彼らがガリラヤで集まっていた時、イエスは言われた、「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、そして三日目によみがえるであろう」。

Musical notation for the phrase: しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい 主 光 榮 爾 歸 光 榮



※聖体礼儀③（金ロイオアン）へ